

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	東京大学
整理番号	A04
構想名	東京大学グローバルキャンパスモデルの構築

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想は、「グローバルキャンパスモデルの構築」を目指しており、「卓越性と多様性の相互連環」と「知の協創の世界拠点の実現」に基づいて、国際的に卓越した大学となる目標を達成できると判断される。</p> <p>各分野における目標達成状況について、入試制度では、入試の多様性を満たす努力をしている。世界各国から優秀な学生を確保できる様、国際バカロレア制度を活用した推薦を幅広く導入しており、一律の入試制度でない工夫も行われている。入試前の来日を不要とするオンライン出願などにより優秀な留学生を確保するために工夫している。</p> <p>教育面では、世界一流の大学と戦略的パートナーシップを構築し、学生が世界トップレベルの教育を受けられるようにしている。大学院では、国際卓越大学院教育プログラムを開設し、学部一大学院の一貫した教育プログラムを実行して卓越大学に相応しい適応能力のある人材育成を行っている。</p> <p>研究面では、優れた研究の継続に必要となる外部資金の獲得件数と研究費額は非常に多く、産学連携の更なる強化が期待できる。大学運営・経営に欠かせない新たな資金となる大学債は、日本の大学で初めての試みで、多くの大学から注目されている。</p> <p>国際面では、東大グローバルキャンパス構築を実効あるものにするために、グローバル・アドバイザリーボードを作り、国際的視野から様々なコメントを受けている。現在数の伸びに問題のある日本人留学生の送り出しや外国人留学生の受け入れ、更に、日本語教育の改善策についてコメントを受け、改善策を実行する努力の継続が望まれる。</p> <p>組織運営・経営では、ガバナンス改革、学事暦改編、世界トップ大学とのパートナーシップの構築等、多くの改善策を試みている。組織としても“運営”から“経営”の視点の変換を行い、組織の体質改善も行っている。</p> <p>上記に記述したように、教育、研究等で、国際的に卓越大学の果すべき目標を数多く設定し、成果を挙げている。戦略的パートナーとの優れた教員の交流等、大学の存在意義を高めるための努力は、十分認められる。一方で、世界で卓越した大学となるためには、今後、他大学と格差をつける「ユニーク」な提案をし、継続、実行し結果を出していくことを強く期待する。</p> <p>自走化については、国際短期プログラム参加学生からのプログラム・フィーの徴収等、計画に沿って進め、財源獲得の資金計画を着実に実行してほしい。</p>	